神奈川県
スクミリンゴガイ防除対策マニュアル

神奈川県　スクミリンゴガイ総合防除体系

9～10月	秋	12月	1月	冬	2月	春	6月	夏	7月
落水	収穫	秋期耕うん		冬期耕うん		入水	移植	中干	除草

貝の動き

◆水がなくなると土中に潜り、殻の中に閉じこもって休眠状態となる。

◆地中(貝の8割は、深さ6cm以内)で越冬。

◆越冬貝が水田に侵入　◆産卵　◆卵が孵化
◆活動活発、食欲旺盛

防除対策

殺貝

必須　10~12月

□秋期耕うん
・耕うん回数が多いほど、効果あり。

殺貝

必須　1月上旬~2月中旬

□冬期耕うん
・越冬中の貝を寒気にさらし、かつ貝を破壊するため殺貝効果が高い。

!
- **トラクターの走行速度を遅く、ロータリーの回転を速くする。(速度：約1km/h、回転数：PTO２以上)**
- **トラクター(爪やアタッチメントも)をよく洗う(貝を他のほ場に持ち込まないようにするため)。**
- **小さい貝ほど破壊が困難であるため、入水・移植以降の対策(浅水管理、取水口ネット、農薬散布等)を合わせて実施する。**

!
- **農薬は登録内容を確認してから散布すること。**
- **作業時はゴム手袋を必ず着用し、素手で触らない(貝には有害な寄生虫<広東住血線虫>がいる場合があるため)。**

地域対策

□越冬場所となる用排水路の泥上げ、雑草除去、水田の不要な水の落水を行い、生息場所をなくす。
※泥の処理方法を調整しておくことが必要。
□貝・卵塊を見つけ次第潰して捕殺する。

侵入防止

入水~移植後3週間

必須

□取水口にネット
(目合いは9mm以下)を設置。

□田面を均平にすることが重要。

!
- **浅水管理ができない場合は、必ず設置する。**
- **侵入する貝が小さい場合はさらに細かい目合いにする。**

食害防止

□移植後2-3週間、浅水管理を行う。水深を4cm以下(理想は1cm)に維持することで実害がほとんどなくなる。

入水~移植後3週間

水深1cm以下が理想。

殺貝

□農薬散布　移植後

※田面が露出しない程度で散布し、1週間は排水しない。
散布後、深水にすると新たに侵入した貝により被害が発生することがあるので注意する。

スクミリンゴガイの被害防止には、対策技術を組み合わせて体系的に防除することが有効です。

スクミリンゴガイの特性＜越冬・食性＞

●越冬

・14 ℃以下では活動を停止し、休眠（越冬）する。
・蓋を閉じて殻の中の乾燥を防ぐことで、半年以上水がなくても、生存が可能。
・殻高1cm未満の貝は低温と乾燥に弱く、殻高3cm以上の貝は土にうまく潜ることができないため、越冬率が低くなる。
・低温耐性は強くはなく、0℃で20～25 日、－3℃で3 日－6℃で24 時間以内に死亡する。
・収穫後に稲わらがあると、温床効果で越冬率が高まるとされる。

●食性

・稲は3～4 葉期までが食害されやすいが、5 葉期になるとほとんど食害されない(移植後3週間程度まで)。
・水温15～35℃の範囲で摂食活動が可能で、水温30℃付近で最も摂食量が多い。

この資料は、「令和３年度病害虫の効率的防除体制の再編委託事業(スクミリンゴガイの総合防除体系の確立)」を活用し作成しました。

【作成者】
神奈川県農業技術センター　普及指導部　作物加工課
0463-58-0333（代表）

令和４年３月作成